

令和5年度 第1回 新潟市男女共同参画推進センター運営委員会 議事概要

日時： 令和5年6月30日（金） 午前10時～正午
場所： 新潟市万代市民会館 307・308 研修室
出席者： 新潟市男女共同参画推進センター運営委員
石原委員、塩沢委員、高橋委員、多田委員、田中委員、永田委員
事務局（男女共同参画課）
石崎課長、土沼課長補佐、竹田課長補佐、三間主査
団体
「OHANA+1」 廣田代表、吉田
「劇団 blue ジーンズ」 小池代表

- 1 開会
- 2 男女共同参画課長あいさつ
- 3 運営委員・男女共同参画課職員紹介
- 4 令和5年度アルザにいがた活動予定について
- 5 男女共同参画市民団体協働事業審査
 - (1) 「それはあなたが望んだ未来ですか？ ～自分らしく生きていって言うけれど～」
(OHANA+1) の審査
 - (団体) 事業概要説明
 - (塩沢委員) 事業計画がすべて「仮称」となっている。講師料が15,000円で4回とも交通費が無いが、どのような講師を予定しているのか。また、どのような広報を考えているのか。
 - (団体) 講師については、依頼しようと思っている方はいるが、未定の所もある。広報については、公式のグループラインを持っているので、そこにチラシを載せたり、アルザの事業なのでその力を借りて、広報してもらいたいと思っている。
 - (塩沢委員) 講師について差し支えない範囲で教えてほしい。
 - (団体) 講師は、第1回は新潟国際情報大学の堀川祐里先生を考えている。第2回は私たちのファシリテーターの仲間で神戸にいる方をお願いし、できればZoomで講座をやりたいと思っている。第3回は未定。第4回は指田祐美さんを予定している。
 - (石原委員) 団体の活動を始めたのはいつぐらいからか。
 - (団体) 公民館で10年以上働いた仲間2人で、初めはホワイトボードミーティングというファシリテーターの資格を取って「チームにいがた」として活動を始めたが、ファシリテーターの仕事だけではなく、やはり私たちは最終的に女性が言葉を持って、元気になってほしいということで、名前を変えて「OHANA+1」で活動を始めた。
 - (石原委員) これまではアルザフォーラムなどに参加されてきたということか。
 - (団体) 最初は「チームにいがた」だったが、昨年度は「OHANA+1」で参加した。

- (高橋委員) 何年も活動してきて、資格もあるのならば、むしろ自分たちでやろうという意欲があってもいいのではないかな。
- (団 体) ファシリテーターとして参加者の話を進行していく役割はできるが、講師としてこの内容について話すことはちょっと難しいかなと思う。
- (石崎課長) 女性を対象にしているようだが、男女共同参画社会を創るためには女性だけではなく、男性も意識を変えていかなければならないが、男性も参加できるかな。
- (団 体) 基本としては、女性の方に気づきをもってほしいと思い、講座を企画した。雰囲気などもあるので、男性が入るとなかなか意見が言いづらいということもあると思う。できれば女性でというふうにしたいが、どうしても参加したいという男性がいらっしゃった場合は、検討する。
- (石崎課長) 男性も気づく機会があることが大事だと思うが。
- (団 体) 男性の意識を変えるということも大切だと思うが、私たちが今回、思っているのが、女性活躍という言葉が出ているが、なかなか女性が声を出せないことがたくさんあるということと、見えないしほりがあることに気づいてもらって、一言でも声が出せるような、自分が人として話せるような気づきがあればいいかなと思っている。

(2) 「創作劇 女たちのパイレーツオブ日本海 ～中年女たちの新時代の幕開け～(仮題)」
(劇団 blue ジーンズ) の審査

- (団 体) 事業概要説明
- (高橋委員) 活動は、啓発活動が目的なのか、それとも創作的な演劇活動が目的なのか。
- (団 体) 啓発活動を目的としている。
- (高橋委員) 芸術的な創作を内発的なもので行っているのであれば、同じようなことを毎回行うというのは嫌になるのではないかなと思ったので、お聞きした。啓発が目的であればそれはそれでよいと思う。
- (団 体) 今回は暴力容認社会のことを少しテーマに捉えて、演劇の内容を考えている。毎年、内容を変えて取り組んでいるので、大事なことを啓発していけたらと思っている。
- (石原委員) 昨年度は何人くらいの方が観賞したか。
- (団 体) 3会場で240人前後、平均80人くらいだったと思う。江南区の横越地区公民館の会場では思ったより多くの方から来ていただき、水原や南蒲原の方も来てくださった。区の近隣の市外の方もどういふことで知ったのかわからないが、だいぶ広がってきている印象がある。
- (塩沢委員) この協働事業ではなくても、自主的な講演でもできる範囲で続けていきたいということだが、自主公演と市の受託事業として行う違いや効果があれば、継続してやってこられて、ここは市の協働事業としての良さだなと感じることがあれば聞かせてほしい。
- (団 体) 市の協働事業に参加するというので、独自でやるよりも広がりや中身の濃さ、安定感などいろいろな意味合いがあるのかなと思う。共にやるというところでたった1団体だが細く長く続けてやっている。メンバーの高齢化もあり、いつまで続けられるかわからないが、やれるところまで一緒にやれたらありがたいかなと思っているし、やれたらいいかなと思っている。
- (塩沢委員) 若い世代への広報で何か具体的な効果などがあったら教えてほしい。

(団 体) 年々、少しずつだが若い方も、劇団関係ではない方も観に来てくれているかなと思っている。2年くらい前からホームページを開設し、また同じ劇団の仲間たちからも広げてもらったりしている。少しずつ若い層も関心を寄せてきているような気がする。

(永田委員) 集客は80~100人はすごいなとびっくりした。事業の目的で問題提起すると書いてあるが、問題提起ということであれば直接、観劇ということでもYouTubeなどを使って広く問題を提起するという方法もあると思うが、そのへんについて考えたことはあるか。

(団 体) YouTubeはアップしている。演劇だけにかかわらずいろいろ手法で広げていけたらいいなと思っている。

(審議非公開)

5 その他

(事務局) 次回の運営委員会は11月頃の開催を予定しているが、あらためて各委員の日程を調整のうえ案内する。